

## Ⅶ 天然群の成長・成熟

### 1 方 法

天然群の成長をみるために種苗放流した海域付近の4漁協（沖縄、勝連、与那城、石川、図15）に水揚げされたタイワンガザミの甲幅測定を行なった。各漁協とも毎月中旬の2日間に漁獲されたものの全数を測定するよう努めた。また甲幅測定時には性別、外抱卵の有無も調べた。

### 2 産 卵 期

水揚げされたタイワンガザミの抱卵率は、沖縄市では調査開始した5月から8月の間20%以上であったが、9～10月に11.8～13.2%と低下し11月以降0%となった。勝連町では調査開始した4～5月が20%以上であったが6月、13.1%、7月、0.7%と急激に低下し、8～9月に4%台にやや増加したものの10月以降1%以下に再び低下し、12月にはついに抱卵個体がみられなくなった。しかし翌1月には少しではあるが抱卵個体が出現した。与那城では調査開始時の7月には8.1%と抱卵率の高い時期は既に終了していた。それでも10月までは5%以上あったが、11月に1.4%となった後12月以降0%になった。石川では調査開始した6月から9月まで20%以上と高い値を示したが、10月に8.3%、11月に1.9%と急激に低下し12月以降0%となった（図16）。

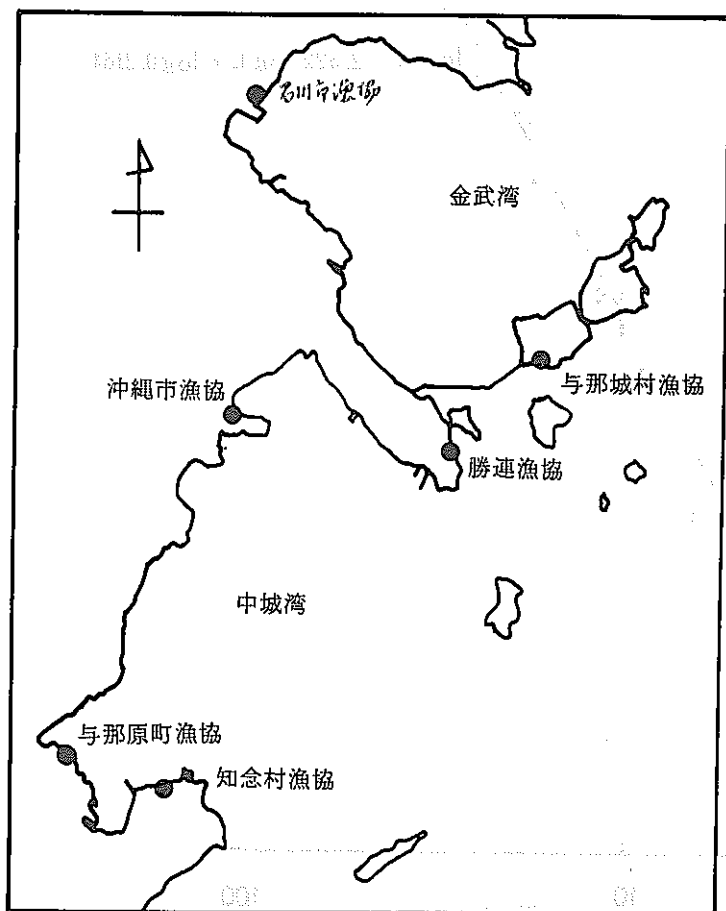


図15 各種調査を実施した漁協の位置

降0%になった。石川では調査開始した6月から9月まで20%以上と高い値を示したが、10月に8.3%、11月に1.9%と急激に低下し12月以降0%となった（図16）。

このように沖縄市や石川市では抱卵個体の多く出現する時期が8～9月まで続いたが、勝連、与那城では夏前に抱卵個体が少なくなった。6～8月の雌の甲幅を比較すると、沖縄、石川では120mm以上のものが大部分を占めるのに対し、勝連、与那城では120mm以下の割合が多く、140mmを越す大型個体が少ない（図17）。抱卵率はこの漁獲される雌の大きさに関係があると思われるが、甲幅組成と抱卵との関係を明らかにするには今後の継続的調査が必要である。

島袋（1982）の沖縄市漁協での調査によるとタイワンガザミは3月から抱卵雌が多くなるので抱卵率の高い時期